

ペレニアルライグラスの新たな奨励品種「夏ごしペレ」

福島県農業総合センター 畜産研究所 飼料環境科

部門名 飼料作物－草地－品種

担当者 木村有希、中村フチ子、國分洋一、片倉真沙美、柳田和弘

I 新技術の解説

1 要旨

放牧の基幹草種として利用されているペレニアルライグラスは、初期生育や再生力に優れ、栄養価や嗜好性の高い草種だが、耐暑性や越夏性が課題となっている。

そこで、ペレニアルライグラスの新品種「夏ごしペレ（東北7号）」について、標準品種である「フレンド」と3年間比較調査した結果、収量性・持続性が優れていたことから、新たな奨励品種として「夏ごしペレ」を選定した。

- (1) 放牧を想定した多回刈り調査の結果、「夏ごしペレ」は「フレンド」と比較して、3年間の乾物収量の合計が5%多収であった（図1）。
- (2) 「夏ごしペレ」の越夏性は「フレンド」と比較して優れ、利用3年目最終刈取後の被度が高く維持された（表1、写真1、2）。

2 期待される効果

- (1) 新たな奨励品種として普及することにより、放牧地の生産性向上が期待できる。

3 適用範囲

- (1) 年平均気温9～12℃程度の地域（阿武隈山間、会津平坦、会津山間、中通りの一部）
- (2) 本草種は放牧利用を想定

4 普及上の留意点

- (1) 試験は福島県農業総合センター畜産研究所内ほ場（福島市荒井：標高295m）で行った。
- (2) 3年間の継続調査中に「夏ごしペレ」を含むペレニアルライグラスの被度低下がみられた。
このため、被度が低下した場合には追播する必要がある。
- (3) 「夏ごしペレ」は、ペレニアルライグラス品種の中では越夏性は高いものの、盛夏時の刈取・再生により草勢が衰える可能性を考慮し、盛夏時は放牧強度を弱める。
- (4) 「夏ごしペレ」の種子は2022年販売開始予定である。

II 具体的データ等

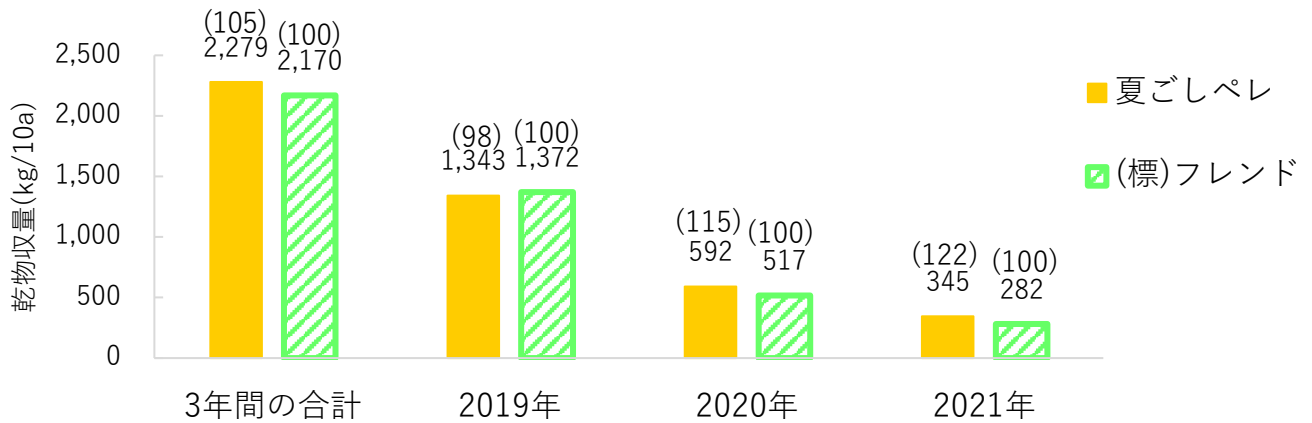


図1 3年間の年間乾物収量

※ 刈取回数は2019年5回、2020年6回、2021年4回。放牧利用を想定して草丈40cm程度で刈取った。

※※ () 内の数字は標準品種を100とした場合の値

表1 品種特性

品種名	発芽良否	定着時草勢	越冬性	越夏性	被度(%)
夏ごしペレ	9	9	9	7	60
(標)フレンド	9	9	9	3	30

※ 飼料作物系統適応性検定試験実施要領に基づき、発芽良否、定着時草勢、越冬性、越夏性は極不良を1、極良を9として評価した。被度は利用3年目の最終刈取後の基底被度を割合で示した。



写真1 最終刈取後の「夏ごしペレ」
(2021年11月撮影)



写真2 最終刈取後の「フレンド」
(2021年11月撮影)

III その他

1 執筆者

木村有希

2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成27～令和7年度

(2) 研究課題名 「牧草・飼料作物の優良草種・品種の選定」

3 主な参考文献・資料

(1) 農林水産技術会議事務局, 飼料作物系統適応性試験実施要領改訂5版, 2001.

(2) 東北農業研究センター, 夏ごしペレ栽培マニュアル(寒冷地暫定版), 2020.